

あの日のベランダ

ジュピジュピ

私は、勉強がきらいな小学6年生の女の子。勉強がきらいな私は、よく授業をぬけ出して、ベランダで空を見ていた。だけど、あの日のベランダは、何かおかしかった。

その日もいつものようにぬけ出して、ベランダに出た。だけど、いつものベランダとは何か違うような気がした。けれど私は、気のせいだと思って過ごしていた。5校時目のと中で、ベランダに行った。その時、だれかがとなりになっていたことに気づいた。名前を聞いても何も言わない。無言のまま。すると、次のしゅん間、その人が飛び降りた！私は、びっくりしてさげんでしまった。そしてその後ろから、

「何をしているの！」

という声が聞こえた。先生だ。私は先生に、今起きたことを話した。すると先生は、

「何を言っているの？だれも下にいないじゃない。」

と言った。私はびっくりして下を見た。けれどもだれ

もいない。確かにだれもいない。だったら、今さっき私が見たものは何だったの？と思いつながらも、私は家に帰った。

家に帰って、学校で起きたことをお母さんに話すと、「そういえば、お母さんもそんな体験をしたわ。」と言った。私は気になってお母さんに、

「そのあとは？」

と聞いたが、お母さんはだまっていたまま。

次の日の朝、お母さんがいなかった。その次の日も、そのまた次の日も……。私はしびれを切らして、お父さんに聞いた。

「ねえ、お母さんは？」

すると、お父さんはびっくりしたような顔をして、

「今まで、お母さんなんていなかったじゃないか。」

「えっ……？」

私はびっくりして、声も出なかった。だったら、あの日の人はだれなの！なぞは、いくら考えてもわからない。だけど、これだけはわかる。すべては「あの日のベランダ」から始まったことだと。